神の川ヒュッテ通信 第85号

発行日　平成２４年１０月１日
発行者　神の川ヒュッテ
代表 杉本憲昭
相模原市緑区小渕1545-1
北丹沢山岳センター内
ＴＥＬ 042-687－4011
ＦＡＸ 042-687－3980

秋の神の川街道への お誘い

今年は夏の猛暑が続く中、雨も長期間降らず神の川街道沿いの木々が枯れ、心配しましたが、9月に入り大量の雨が降り、元気を取り戻しました。
神の川街道沿いの自然は実に美しく、神の川に流れ込む沢水、滝となって豪快に流れ落ちる水爆、木々の色とりどりの色彩等リフレッシュできる一日を堪能出来ます。
又、今年の天候の影響で、動物のエサとなる秋の実りが心配されますが、この冬、無事に過ごせるのだろうか等、こんなことを思いながら、神の川街道で時々見られる、日本カモシカ、シカ、熊、小動物等に思いをはせながら散策してみてはいかがですか。
一の川ヒュッテでは皆様をお迎えする準備を整え、お待ちしています。

ユーシンロッジの再開に向けての近況報告

５年前の仏岩のトンネルの崩落により、ユーシンロッジは営業中止に追い込まれ、神奈川県にて維持管理を行ってきましたが、神奈川県の民間委託の方針により、NPO北丹沢山岳センターでは、ロッジの再開を待ちわびる登山者の声を受け、維持管理をお受けし、平成24年４月より神奈川県観光課とNPO北丹沢山岳センターとの間で管理契約を締結致しました。

契約締結前の今年2月、閉鎖中のユーシンロッジに玄倉林道より、残雪の残る悪路をNPO北丹沢山岳センターの関係者一問、自動車で入り、小屋の傷み具合等チェックし、現在までの約半年、定期的に建物の維持管理の為の作業を実施して来ました。

今年の春より、トンネルが開通し、ロッジまでの林道が整備されましたが、6月の豪雨により、林道が崩落し再び通行出来なくなりましたが、神奈川県の復旧作業の努力はめざましいものがあり、既に完全に補修が完了致しました。

ロッジの営業はまだ未定ですが、玄倉林道が周辺の環境を含め整備されてきていますので、徒歩ではロシジまで入山できます。ぜひユーシンロッジを訪れて下さい。

これからの玄倉川の秋の紅葉は、何と言っても絶品の言葉しかありません。

かつての玄倉林道の賑わいは西丹沢を代表するものでした。

玄倉林道沿いの谷は沢登りのメッカとして、小川谷をはじめ岳人の憧れの地でありました。

登山ルートも扇型にユーシンロッジから鍋割、塔ヶ岳、丹沢山への最短コース、蛭ヶ岳、桧柄丸への雄大なコース等丹沢山塊を代表するダイナミックなコースに恵まれています。

今年の夏にキャンプで訪れた多くの登山者からロッジの再開を望む声が寄せられていますので、一日でも早く再開し、かつての西丹沢の賑わいを復活させる為に、努力いたしますので、よろしくお願い致します。

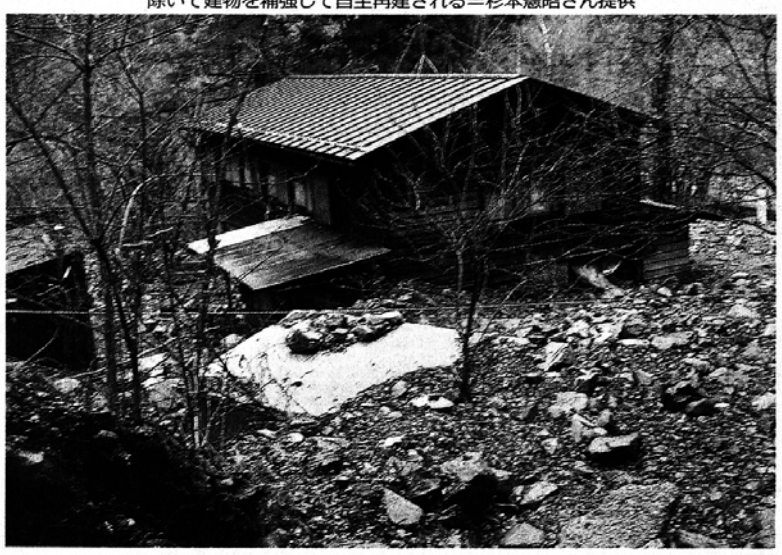
多くのボランティアにより支えられて 神の川ヒュッテは、平成２５年で 再建２０周年を迎えます

平成６年に旧藤野町牧野財産区より建物を譲り受け、建物の改修工事を歴代山﨑工務店、古瀬村建築、小林利雄大工さんなど、２０年間自前で行ってきました。

そして、あの大災害で（平成19年９月６日）は、山小屋、土石流の工事代800万円を多くの方々のカンパと借入金と自前のお金を投入し、今も分割で返済しています。

公的補助金は、一銭たりとも頂かずに再建してきました。
この歴史的歩み、再建20年の誇り、平成25年４月14日（日）に北丹沢神の川流域の山開きで祝賀会を開催します。

土石流で壊滅状態となった神の川ヒュッテは、土石を取り除いて建物を補強して自主再建される＝杉本憲昭さん提供



愛好家らが自主再建へ

山小屋「神の川ヒュッテ」

ボランティアで復旧 10月にも営業再開

昨年9月の台風で壊滅状態となった北丹沢山系の山小屋「神の川ヒュッテ」（相模原市津久井町青根）は、山岳愛好家らがボランティアで建物を復旧し、水源地域を抱える市の冷ややかな対応に批判の声が上がっている。

ヒュッテ（木造2階建て、広さ約170平方㍍）は北丹沢山系への登山拠点で、相模原市の藤野町山岳協会メンバーらで組織する同ヒュッテ管理委員会（杉本憲昭代表）が運営していた。しかし、昨年9月の台風9号の豪雨に伴う土石流で1階部分が埋まるなど壊滅状態となり、営業中止に追い込まれた。

管理委員会は東海自然歩道で唯一、宿泊できる山小屋であることや、登山者の安全や水源地域の監視などヒュッテの必要性を再確認。現地での再建は困難と判断し、隣接地に木造平屋建て施設（宿泊客40人収容、建設費約3000万円）の建設を計画した。土地と建物を所有する牧野財産区の管理者の同市に2月、県山岳協会など165団体6200人の署名を添えて早期再建に向けた財政支援を要請した。

ところが、加山俊夫市長は3月18日付の文書回答で「再建の考えはない」と要請を拒否。ヒュッテ脇の林道、河川を管理する県が「一義的に対応するのが望ましい」との理由だった。

管理委員会はこのため、新しい山小屋の建設を断念し、自主再建を決定し、ヒュッテ友の会の今村衛会長ら21人で再建委員会を結成。再建費用約500万円のカンパを募り、ボランティアと県の協力で土石を除去したり、建物を修復することにした。ヒュッテ脇の東海自然歩道の被災部分約300㍍は既に県が改修し、登山道の付け替え工事も始まった。

管理委員会は水源地域を守りながら、ヒュッテを拠点に山岳耐久レースを主催するなど地域貢献活動をしてきた。支援を断った市に対しては地元住民から「水源地域を抱えて合併した相模原市なのに、水源地域の施設が果たしている役割の認識があまりにも乏しい」と厳しい批判が出ている。

杉本代表は「市の援助の見込みがなくなった。山岳関係者ら多くの方々と県の協力をいただき、遅くとも10月には再開したい」と話している。カンパなどの問い合わせは同管理委員会（042・687・4011）まで。

【高橋和夫】

自主再建されることになった。管理者の相模原市から再建の財政支援を断られたことから、新しい山小屋の建設を断念。現地の土石を除去して建物を補強し、10月にも営業を再開するが、住民からは

北丹沢・神の川ヒュッテで盗難事件 昨年と今年の2回、プロパン持去られる

神の川ヒュッテでは、昨年(平成23年)プロパンガス・10kボンベ1本が盗難にあいましたが、今年も8月28日に何者かにより、営業プロパンガス1本が盗難にあいました。
管理人により津久井警察署に盗難届けを提出致しました。
又、心もとない人により、トイレの鉄クサリが切断され持去られました。
周辺の山小屋、キャンプ場に注意を呼び掛けています。